

横浜市立いぶき野小学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
夢に向かって 希望を持ち ともにがんばる いぶき野の子 ～温かい言葉 思いやりの心 笑顔あふれる学校～	「まちから育つ長津田の子」「言語能力」 「自分づくり」「問題発見解決能力」

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>だれもが安心して、自分の夢に向かって成長していくことのできる学校創りを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組み、互いに学び合いながら、問題を解決していく力を育てます。 ・人とのふれ合いや関わり合いを大切にした教育活動を展開し、互いに認め合い、思いやることのできる心を育てます。 ・心身の健康のために、進んで運動したり、毎日の食事を大切にしたりすることができる力を育てます。 ・地域の特色や地域教材を生かした教育課程を工夫し、まちの「ひと・もの・こと」とのつながりを意識した体験的な活動を通して、まちを大切にすることを育てます。 ・学校、家庭、地域、諸機関の連携を密にして、安心で安全な学校生活が送れるようにします。 ・異なる文化や考え方を尊重することができるようにします。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「できた」「わかった」を大切にした授業づくりに努める。 ・めあてを示し、見通しをもって授業に取り組めるようにする。
担当 学力・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの思いや考えを伝え合う場面を設定し、学び合える授業づくりを行う。

2 横浜市学力量学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

学力は、現2～6年において、学年による差はあるものの、すべての学年の全教科で横浜市の平均を上回った。生活意識と学習意識も市の平均を上回っているものの、教科によってばらつきが大きい。教科別に学力を見ると、算数、国語、社会、理科の順番に高くなっている。学習意識でも、算数、国語が「好き」と答える割合が市平均よりもかなり高くなっている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：4教科中で2番目に高い学力が示された。学習意欲も高い。
- 算数科：4教科中で最も高い学力が示された。学習意欲も高い。高学年で学力が高い傾向が見られた。
- 社会科：4教科中で3番目に高い学力が示された。学習意欲は市の平均を越えたものの比較的低い。
- 理科：市の平均は超えたが、4教科中で一番低い。学習意欲はそれなりに高い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

29年度と比較して、学習意欲、学力において、教科によって増減に差が見られた。学力では国語、理科は横ばい、算数は大幅に上昇し、社会はやや低下傾向にある。学習意欲では、算数、国語が大幅に上昇した。一方、昨年度一番高かった社会は一転して一番低い結果に。重点の教科が算数だったので意欲・学力共に上がったのだと思われる。社会の意欲低下については引き続き分析する。

※データは平成30年2月実施の調査より。

3 令和元年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、ペアで話し合う場を設ける。
- 興味をもって話を最後まで聞いたり、わからないことや詳しく知りたいことを尋ねたりする活動を大切にする。

2 学年

- 文を読む力を伸ばすことで、読解の基礎を培っていく。また、丁寧な字でノートをとること、姿勢に気をつけ要点を押さえて話を聴くことなど、教科学習の基本となることを粘り強く指導し、表現活動の素地となるようにする。
- 友だちの意見と自分の意見の共通点や相違点、友だちの意見のよいところなどを考えながら聴き、認め合う気持ちをもって話し合いをする場面を位置づける。

3 学年

- 各教科の学習を通して、自分が思ったことや考えたことを表現していく活動を充実させていく。また、相手の思いや考えに共感しながら聞く態度を培っていく。
- お互いの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う場面を位置づける。
- 相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら話すことを意識させていく。
- 比較する、記録するといった学び方を子どもたちに教え、その学び方を教科等横断的につなげて汎用することができるようにする。

4 学年

- 各教科の学習を通して、基礎学力の充実とともにさらに自分の思いや考えを伝え、また相手の思いや考えを理解しようとする活動を充実させる。
- お互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合う場面を位置付けていく。
- 結果と原因の関係や根拠を明確にして表現することの大切さを理解し、自分の考えを説明する文章、記録、報告する文章を書くなどの表現活動を行う。

5 学年

- わくわくフェスティバルなど総合的な学習で説明する文章や、各教科で自分の考えや感想を書くなど、自分の思いを素直に表現することを大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話に関心し、自分と照らし合わせて話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習とふり返しを行う。

6 学年

- 各教科の学習を通して、これまで身につけてきた文章を書く力を意識的に生かすなど、表現活動を大切にする。
- 共通点や相違点を明確にするとともに、説得力のある構成や話し方を工夫しながら話し合う。
- 関連付けや分類・整理、多面的なとらえ方を学習に取り入れる。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・指導計画に基づき、身振り、表情、仕草、話し言葉、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 障害の状態や発達の段階等に応じて、具体物や視覚的な情報を加えて分かりやすくしたり、拡大・代替コミュニケーションを活用したりする。